

心に残る文化財子ども塾 松江市立義務教育学校八束学園

1. 活動の概要

6月7日(金)、松江市立義務教育学校八束学園で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに縄文時代の人々の生活について、県埋蔵文化財調査センターの職員から、話を聞きました。縄文人がどのように生活していたのか、学校の周辺にはどのような遺跡があるのか学習しました。写真や実際の出土遺物の見学で理解をさらに深めました。

その後、「土器づくり」、「勾玉づくり」を行いました。「土器づくり」では、粘土を輪積みにし、思い思いの形を作っていました。また、文様などそれぞれで工夫して、土器を仕上げました。子どもたちに当時の人々の技術力の高さについて感じてもらうことができ、有意義な体験活動になりました。

2. 活動の様子

1)縄文人の生活を知る



縄文人はこのような生活をしていました。

2)古代体験活動～土器づくり～



土器に文様をつけてみよう。

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・縄文時代の人の大変さを知れた。
- ・土器づくりが楽しかった。
- ・ほかの遺跡や土器、勾玉などについてもっと知りたい。
- ・勾玉づくりなど、ほかの体験もしてみたい。

2) 担任の先生から…

- ・実物を見ながら説明が聞けて良かった。
- ・短時間でコンパクトに地元の遺跡や出土品などの話が聞けて良かった。
- ・土器づくりという体験ができて良かった。
- ・体験できるということは最大の強みで、歴史は座学になりがちなか中、体験で学んだことは一生の記憶に残る。

3) 埋文センターから

縄文時代の説明では、写真などの資料を見たり、児童の皆さんに考えてもらう場面を設けたことで、興味をもって、話を聞いてもらうことができました。また、周辺の遺跡やそこから実際に出土した遺物を見ることでさらに理解が深まったように感じます。

体験活動を「土器づくり」を実施しました。児童の皆さんは、一生懸命作業に取り組んでくれました。先生方のご協力もあり、思い思いの形で文様をつけた土器をつくることができました。「土器づくり」の最中、児童の皆さんから「難しい、当時の人たちはすごい」などと作業中に声を聴くことができ、当時の人々の技術力の高さや文化について、実感してもらうことができたと感じました。